



小学校の ころからの 夢でした

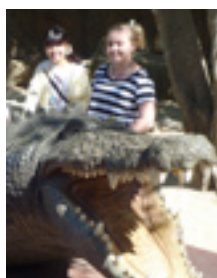


縄田 裕之
高千帆中学校 3年

僕は小学生のころ、この事業を知り、それ以来ずっと参加したいと思っていたので、参加の報告をもらった時は本当にうれしかったです。しかし出発が近づいてくると、やはり不安を感じました。でも実際オーストラリアに着くと、ホストファミリーの兄弟、アイザックとトムがとても仲良く接してくれ、淋しいと思うことはありませんでした。お母さんのジュリーも毎日学校へ手作りサンドイッチを持たせてくれました。初めはなかなか言葉を聞きとることができず、家でも学校でも、うまくコミュニケーションが取れませんでした。みんな優しく気づかってくれ、僕の事を理解しようとしてくれました。学校ではたくさんの方が話しかけてくれ、パーティーを身内や親せきでもよくやるそうで、とても開放的な人達だと思いました。

楽しかったことはファミリーとドリームワールドへ行ったことです。アイザックと一緒にいろんなアトラクションに乗ったり、動物のショーを見たり、初めてコアラを見たことです。学校はとても早く下校したり、家では夜9時に寝たり日本では考えられない過ごし方の2週間でしたが、とても楽しくあっという間に過ぎていきました。この体験は、将来に活かせると思うし、自信にもなると思います。最後に市長をはじめ、この事業を支えてくださっている職員の方、こころよく歓迎してくれたホストファミリーに心から感謝いたします。

「ありがとう」が いっぱい 国際交流



白石 萌子
埴生中学校 3年

出発前、私はホームステイをすることに不安と期待がありました。自分の英語が通じるだろうか、2週間も一人で過ごせるだろうか…。でも、オーストラリアに着いた時にホストファミリーが笑顔であたたかく迎えてくれたので、不安がなくなり期待がどんどん大きくなりました。

向こうに着いて2日くらいは自分から話しかけることが出来ませんでした。しかし、ホストファミリーや学校でできた友達が、ゆっくり分かりやすい単語で話しかけてくれました。そのおかげで、3日目くらいには自分から話しかけられるようになり、コミュニケーションをしっかりととることができました。この2週間楽しく過ごせたのは、ホストファミリーが私の立場に立って優しく話しかけてくれたり、私のためにいろいろな思い出と一緒に作ってくれたりしたおかげです。向こうの家族には毎日たくさんの「Thank you」を伝えてきました。また言葉にはできなかつたけど、他の5人が同じ場所で同じようにがんばっていると思えたことでとても心強く、一人でもがんばれたし、こんなに楽しく充実した2週間を過ごせたのだと思います。国際交流に必要なことは一歩踏み出す勇氣、相手を思いやる気持ち、そして感謝する気持ちを忘れないことだと学びました。

今後、このような国際交流のできる機会があれば、今回の経験を生かして日本の文化や食べ物、日常生活、学校生活など、もっとたくさんのことを進んで外国の人にも伝えていきたいと思っています。

